平成 27 年度 自 己 評 価 表

鳥取県立皆生養護学校

中長期目標 (学校ビジョン)	学び 輝き 感動のある学校 幼児・児童・生徒が充実した学校生活を送り、個々の可能性を伸ばし、よりよく生きることができるようにする学校 《 18歳で自立できる人を育てる ～将来を見とおした今のQOLの向上～ 》	今年度の重点目標	1 幼児・児童・生徒一人一人の卒業後の姿を見据えた教育に努める。 2 保護者や地域の期待と願いに応える。 3 幼児・児童・生徒の健康と安全を守る。 4 センターの機能を推進する。 5 開かれた学校を推進する。
-------------------	---	----------	--

年 度 当 初		評 価 結 果 () 月					
評価項目	評価の具体項目	現状	目標 (年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
一人一人の卒業後の姿を見据えた教育の充実	幼・小学部	○より具体的な授業改善や支援の精選	○チームの教師間での話し合いや見直しの会、チェックリストの活用等により、幼児・児童の実態把握は進んだ。しかし、より具体的な目標設定や、数値・系統性を見据えた授業づくりや授業改善には見直しが必要である。	○客観的な評価や、教師間でブレのない評価が行われ、幼児・児童に今必要な指導・支援が行われている。	○視点を持って指導や支援を評価したり、見直しをしたりする機会を持つ。 ○事例研や参考例を基に、密な改善(研究、普段から何気なく質問し合う、今していることについてを確認し合う会の設定等)を行う機会を作り、研修を深める。		
	中学部	○自己実現に向けた目標設定と評価基準の共有 ○進路についての課題共有	○キャリア教育の視点に立った目標の設定、教師間での評価基準の共有が、十分に図られてはいない。 ○将来の生活や職業に向け、課題や可能性について、教師と本人や保護者との話し合いや進路情報の提供が不十分である。	○教師間でキャリア教育の系統的な指導目標を共有し、自立した生活に必要な指導が行われている。 ○本人や保護者のニーズを共有し、進路について十分な話し合いがもたれている。	○キャリア教育研修会や生徒について語る会を持ち、映像等の客観的データ、連携図等を活用しながら適切な目標を設定するとともに、共通の評価基準を持つ。 ○本人や保護者のニーズの把握や、進路等の情報提供をしっかりとるとともに、課題共有に向けて取り組みの見直しを図る。		
	高等部	○授業改善と卒後を見据えた産業現場等における実習の充実	○チェックシートや映像記録による実態把握や評価基準の明確化、連携図をもとに適切な課題設定に取組み、授業改善を行ってきた。 ○課題を明確にした一人一人の卒業後を見据えた現場実習の取組を進めていく必要がある。	○指導者間の連携が進み、連携図等を活用して情報共有や評価基準の共通理解をして授業を行っている ○3年間を見通した目標設定や実習先の選定を通して卒業後を見据えた指導が行われている。	○卒業後を見据えて今つきたい力を指導計画等に明記し、連携図の活用や授業者支援会議システムによる授業改善を行う。 ○個別の会で実習後の的確な評価や次の実習の課題設定を行い、学習指導に活かす。進路・キャリア教育に関する研修を学部で実施する。		
	研究・研修課	○必要な力をつける授業づくり	○昨年までの研究で、発達や障がい特性に応じた指導・支援による授業改善が進んできている。更に、将来を見据えた必要な力を明確にして、「根拠のある授業」を実践していく中で、映像記録を蓄積し、検証力、授業力をつけていくことが必要である。	○客観的なデータを複数で検証することにより、「授業の根拠」となるものを作成し、必要な力を明確にした授業が行われている。	○子どもの変容が分かる記録(動画等)をとり、複数で検証する。 ○授業の根拠となる資料を活用しながら授業を行う。 ○卒後の姿をイメージし、必要な力を明確にする。 ○外部講師を招いた研究報告会を実施し、指導助言を授業改善に活かす。		
	教科等指導部	○実態把握に基づいた授業改善	○客観的データに基づいた実態把握による授業改善を行ってきた。今後、更には確かな実態把握による授業改善を進める必要がある。	○個々や学習集団の実態を的確に把握し、それぞれに合った指導、支援がなされている。	○個々や学習集団の実態把握をするための資料の提供をする。 ○授業者支援会議、教科主任情報交換会を提案し、指導力の向上に役立てる。		
	進路指導課	○キャリア教育全体計画・推進計画を活用した授業づくり	○授業者は幼児、児童、生徒にとって今必要な力をつけるため、発達や障がい特性に応じた指導・支援の工夫を行っている。	○キャリア教育全体計画・推進計画を活用した授業が行われている。	○キャリア教育全体計画・推進計画をどのように授業づくりに活用していくか研修会を持つ。 ○キャリア教育全体計画・推進計画について学部ごとに検討会を持ち、見直しを図る。		
ニーズに対応できる専門性の向上	自立活動部	○学習指導の充実につながる研修会の実施	○3分の1の職員が入れ替わったため、研修内容によっては「基礎的」「応用的」とグループ編成を工夫する必要がある。	○職員のニーズを把握し、学習に必要な教材教具の整備が進んでいる。 ○研修内容によってグループ編成を行い、学習指導の充実につながる研修会が実施できている。	○自立活動通信や研修会で教材教具を使用した授業実践について紹介する。 ○前期は身体の動きと認知についての基礎的・基本的な内容、後期は経験年数や学習グループに応じた内容の研修会を実施する。(実技や教材教具を実際に使用する研修会の実施)		
	情報教育課	○ICT機器の有効活用	○iPadが授業の中に取り入れられる場面が見られるようになってきた。しかし、iPadの効果的な使い方や活用法について検証して理解を深めたり、職員間で共通理解を図ったりするまでに至っていない。	○iPadの基本操作や実践事例について理解を深め、個々のニーズに応じた有効な使い方について知る。	○幼児・児童・生徒の実態に合わせたiPadの活用方法について、実践事例を検証・紹介する機会を設ける。 ○iPadのアプリ活用に関するミニ研修を実施したり、基本操作マニュアルを作成したりする。		
全校の健全生活と安心	保健指導課	○危機管理に関する研修や訓練を実施しているが、緊急対応マニュアルの見直し、及び、研修や訓練の積み重ねにより、危機管理意識の向上、維持が必要である。	○緊急対応マニュアルが改善され、より実効あるものになっている。 ○教職員の危機管理意識が向上し、各種緊急対応に備えている。	○緊急対応時における役割分担を見直し、マニュアルに明記する。 ○専門家を招き、摂食指導研修、窒息事故対応訓練、不審者対応訓練を実施する。			
開かれた学校の機能の推進	センター的機能の推進	○適切な相談対応の的確な支援	○発達や障がい特性を踏まえた支援について、専門的な意見や助言を求められている。 ○就学相談が多い。	○地域支援活動や教育相談活動を円滑に行い、ニーズや課題に応じた効果的な支援を行っている。	○主訴やニーズを整理し、明確にする。 ○本校や他機関の持つ専門性を生かし、必要に応じて連携を取る。 ○就学支援に関わる研修や説明等の場を持つ。		
	交流教育課	○交流及び共同学習の充実	○交流及び共同学習を実施しているが、ふれあいや活動にとどまっておき、ねらいが十分に達成できているとはいえない。 ○年1回地域との交流を実施しているが授業への参加に終わっている。また地域とのネットワーク作りが十分であるとはいえない。	○教育課程上の位置づけやねらい、評価等を明確にして交流及び共同学習を実施している。 ○地域に積極的に働きかけながらふれあいの場を持ち、理解啓発を行っている。	○交流評価シートやアンケート、関係者との話し合い等を行い、検証や見直しを行う。 ○公民館を通して地域の人に更なる積極的な学校行事への参加や作品展示等呼びかける。 ○学校便りやHP等で積極的に情報発信を行う。		

評価基準 A：十分達成 [100～80%] B：概ね達成 [80～60%程度] C：変化の兆し [60～40%程度] D：まだ不十分 [40～30%程度] E：目標・方策の見直し [30%以下]